



# 水稲管理情報

令和2年4月  
J A 志 賀  
能登南部営農推進協議会

## 田植え編

### 育苗日数1か月以内の健苗を植え、分けつを確保！

#### 1 健苗の準備

◆育苗日数1か月(20~30日)以内が田植えに適した苗です。

- ・育苗日数が長く、葉令が進んだ老化苗を田植えすると、活着(自根で養分や水分の吸収が可能)が遅れ、穂となる有効茎の数が少なくなる一方、遅く発生する分けつが多くなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- ・活着を早くするためには、種もみの中に養分の残っている状態、葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
- ・田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、苗を外気に慣らしましょう。

#### 2 代かき作業について【超重要】

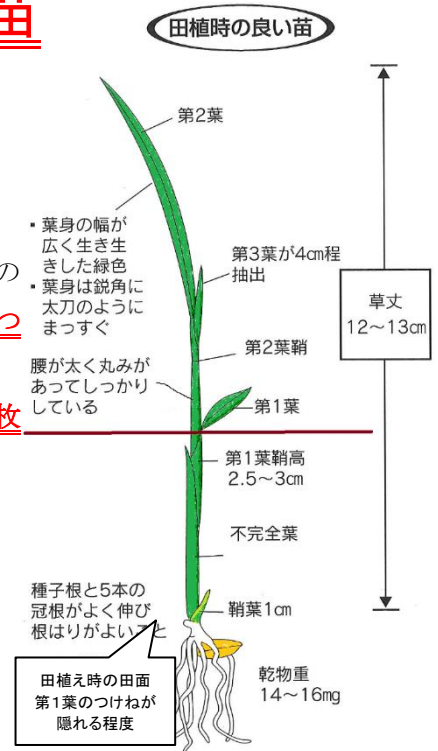
- ・環境に配慮した「志賀米・能登米」生産において濁水の河川流入を防止する観点から、浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しないようにしましょう。また、田植え前の「強制落水」は避けて下さい。
- ・作業は田植え予定日や除草剤散布日を考えて計画的に実施して下さい。

#### 3 田植え作業について

- 時期：コシヒカリについては、登熟期の高温を避けるため遅植え(5月10日~20日の田植え)を行い、乳白粒の発生を抑えましょう。またそれ以外の品種についても、高温のリスクを回避するため、5月に入ってから田植を行いましょう。※低温、強風の日は田植を控えて下さい。
- 植付本数：1株当たり3~4本の細植えにしましょう。
- 栽植密度：60株/坪以上とし、中山間地・低地力・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため疎植は避けましょう。
- 植付深さ：初期生育を促進させるため、植付深さ2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植えとしましょう。田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認して下さい。
- 水管理：活着後は浅水管理を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理としましょう。(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

#### 4 基肥施用について(「志賀米・能登米」コシヒカリは化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下)

- ・基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)



施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		「志賀米・能登米」コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシ一発	20kg~上限30kg	—
	BB けい酸パワー・コシ一発くん	50kg~上限55kg	—
	BB 里山の香	45kg~上限53kg	—
	BB 新早生一発くん	—	30kg~35kg
分施体系	BB 高度056号	25kg~上限28kg	30kg~35kg

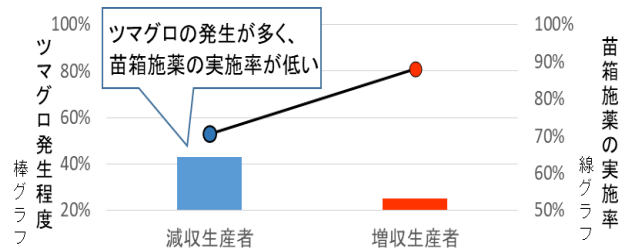
※ 施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。

※ 「志賀米・能登米」コシヒカリは施用量が上限を超えた場合、慣行米となります。

## 5 病害虫防除について

### ◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・初期害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ）や葉いもちの常発地では必ず防除を実施して下さい。
- ・昨年度に行った減収実態調査の結果から、**箱剤の実施率が低いとツマグロヨコバイの発生が多くなり、減収することが明らかとなった**（図1）ため、必ず施用するようにして下さい。



＜図1＞ツマグロヨコバイの発生と苗箱施薬剤の実施率

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
ブイゲットパティード粒剤 (2成分)	田植3日前～ 田植当日	50 g/箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イナゴ類

※ JA育苗センターからの購入苗は苗箱施薬剤が散布済み（夢あおば・ホシアオバ除く）です。重複散布しないよう注意して下さい。

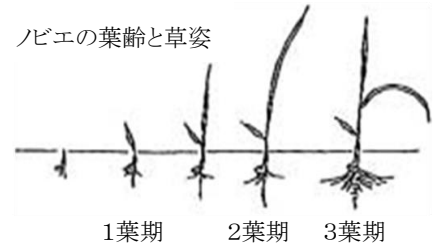
※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

## 6 除草剤の使用について

- ・雑草は代かき直後から発生し始めます。**除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布**して下さい。
- ・湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。除草剤の効果を十分発揮させるため、田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態（4～5cm）を保ちましょう。また、**安定した効果を得るため、散布後3～4日間（処理層が形成・安定する時間）は湛水状態（4～5cm）を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。**なお、やむを得ず入水する場合は静かに（処理層を壊さないよう）行って下さい。

（参考）代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数 (平年の場合)	志賀	7日	11日	15日	18日	21日



※ 5月10日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
初期剤 1成分	マーシット1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ1葉期
	ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
中期剤 3成分	マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15日（稲5葉期以降）～ノビエ3.5葉期

残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期	
初中期一発剤 3成分	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	エンペラー1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	コメット	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
	アツパレZ	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期
		フロアブル	500mL	田植後3日～ノビエ3葉期
ジャンボ	400g	田植後3日～ノビエ3葉期		
サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期		

残草・後発生がある場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤 1成分	※多年生雑草が残った場合 アトリ1キロ粒剤	1kg	田植後14日（稲5葉期以降）～ノビエ4葉期
	※ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 パサグラン粒剤	3～4kg	田植後15日～55日（落水散布）

## 7 補植について

- ・**20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。**隣接株が大きく育ち減収にはつながりません（補償作用があります）。**やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい**（散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります）。
- ・**補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去して下さい。**

安全・安心で環境にやさしい能登の米づくりルール

- 安全・安心な米を提供するため、農薬はラベルに記述してある使用方法を厳守して下さい。
- 水稻育苗後に野菜を作付する場合、ハウス内で水稻用農薬を散布しないで下さい。  
水稻用農薬が野菜に残留する可能性があります。残留すると野菜の出荷・販売はできません。